筑波大学総合学域群生の大学進学と学類選択に関する研究

伊藤 暢紀

2021 年度から筑波大学に「総合学域群」が開講された。総合学域群生は大学 1 年次、特定の学類に所属せず、複数の学類の授業を履修し、大学 2 年進級時に特定の学類・専門学群へ移行する。大学入学後の 1 年間で、自分の興味関心がある学問分野の幅を広げ、専門的に学ぶ分野を選択できる点が、総合学域群の魅力といえる。しかしながら、実際に総合学域群生がそのような選択を行うことができているかは十分に明らかにはなっていない。

進学志望動機については様々な研究が行われており、渕上(1984)は、学力の高い生徒は、大学で専門知識を深めたい、広く教養を身に着けたいと考えることが多いとしている。しかし、進路選択に関する調査は質問紙による一斉調査の方法で行われることが多く、インタビューを用いた質的調査による研究ができていない。本研究では、インタビュー形式を用いつつ、筑波大学のように、学部別入試と総合選抜入試が共存する中で総合選抜入試への出願を行った動機と、総合学域群入学後どのようにして移行する学類・専門学群を選択するのかについて明らかにすることを目的とする。調査手法として半構造化インタビューによる質的調査を用いた。調査対象者は筑波大学 2021 年度および 2022 年度入学者 3 名であり、調査期間は 2022 年 5 月から 2022 年 11 月である。

調査結果から、受験以前から特定の学類・専門学群への入学に興味関心を持ちつつも、総合選抜入試を受験する学生が多数存在していることがわかった。総合選抜入試を受験した理由として、一般入試の募集人数が減少したことが影響していると回答する声が少なくなかった。総合選抜と一般入試の合格者倍率に大きな開きがなくとも、合格者人数が多い総合選抜入試を受験し、大学進学に対する安心感を求める傾向がみられた。一方、総合学域群に入学してからどの学問分野を専門的に学ぶか考えたいという回答も得られた。また、多くの総合学域群生に現役合格志向が出ていた。

どのようにして移行する学類・専門学群を選択するのかについては、特定の選抜入試の区分での入学者を優先して移行受け入れを行う制度や、志望学類への移行条件となる科目が定められているといった、総合学域群の移行システムに関する回答が多く得られた。移行科目が定められていることにより、春学期はじめの履修登録の段階で大まかに移行学類の選択をしなければならず、希望の学類に移行するには高い成績を求められることから、移行先を考える際は不安やストレスを感じていたという回答も多く得られた。総合学域群生は 2 年次には、いずれかの学類に移行を完了したいと考えており、進学動機、移行先の決定のどちらにおいても、近い将来の実績を確保することによって安心感を得たいと考える学生が多いのではないかと考えられる。総合学域群生が広い視野を持ったうえで、移行先の選択を行うには、入試や移行のシステムの見直しが必要だといえる。

（指導教員　後藤 嘉宏）